

11月15日
2021 年

気候変動問題に 仏教者がとりくむ意義

本多真成
TERA Energy（株）取締役

自己紹介

TERA Energy(株)取締役
大阪府八尾市 恵光寺住職

- 「環境問題と仏教」を研究
- 博士論文「ディープ・エコロジーの仏教的展開」
ノルウェーの哲学者アルネ・ネスのエコロジー思想を仏教思想との比較で検討。
- その後、浄土真宗本願寺派／総合研究所にて「気候変動問題」にかかわる。仏教者として具体的に何ができるか検討。
- 2018年に退職。僧侶3人とともに電力会社TERA Energy(株)を起業。



テラ・エナジー（株）

- 宗教者が立ち上げた電力会社（世界初！）
- 【特徴】大きく2点
 - ①FIT + 再エネの率 82%
 - ②電気料金の2.5%が指定団体へ自動的に寄付

【思い】気候変動への取り組みを推進したい +
地域・社会を支える団体を継続的にサポートしたい



気候危機の大枠はほぼ確定している

- なぜ、気候変動問題に積極的になれないのか・・・
「温暖化と自然現象との因果関係が確定してないから」
「経済を優先しなければならないから（雇用が奪われるから）」
- 気候変動問題の現状を知ること
 - ・IPCC報告書、COPの動向
 - ・RE100、CAN Japan・・・



発表の順番

1. 気候変動問題は宗教的課題？
 2. ディープ・エコロジー
 3. ディープ・エコロジーと仏教
 4. エプロン・ダイアグラム
 5. まとめ
-

気候変動問題は宗教的課題？

ホワイト「環境問題は宗教的課題」

- 1967年に科学雑誌SCIENCEに論文投稿
- 環境破壊の出発点は、ユダヤ・キリスト教。
- 環境問題は宗教的課題、だからこの問題には宗教者がまず取り組まなくてはならない。

→宗教と気候変動問題がむすびつく

キリスト教：環境神学の樹立

6

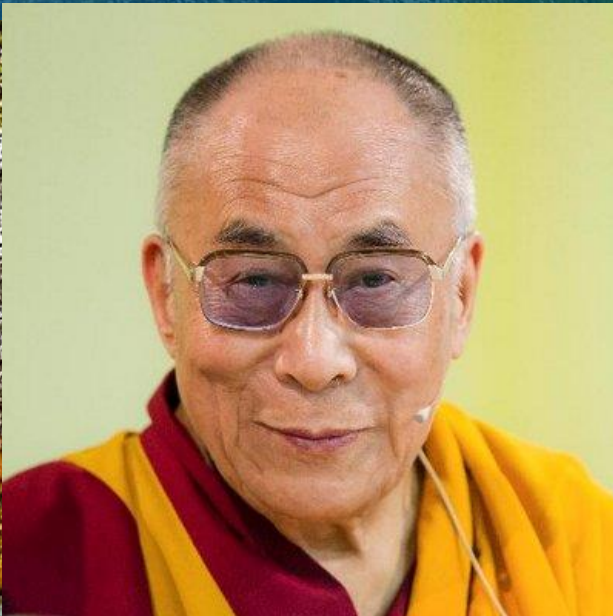


リン・ホワイト Jr. (1907-1987)
アメリカの歴史学者。

気候変動問題は宗教的課題？

仏教：環境問題へのアプローチは、続かなかった？

- 1990年ころに研究本格化。背景に世界的な環境危機意識。
- 2000年以降より低迷。
- 仏教者による地道な活動もある。「木の出家」「アミダの森」「播磨灘の海洋汚染への活動」「ソーラーパネル設置」・・・



ダライ・ラマ14世

1990年から現在まで気候変動問題の危機と積極的な意見発信をおこないつつけている。

気候変動問題は宗教的課題？

仏教者：仏教と環境問題を「どうやってくっつけるか？」を議論してきた。



仏教

菩薩行
仏性論
室内設定温度
クールビズ
ゴミの分別

環境問題



気候変動問題は宗教的課題？

気候変動問題に取り組むうえでの思考パターン

外在化 Externalization

主流の思考パターン

上からの倫理

気候変動問題
の犯人探し

犯人の特定／罰則
自分との距離

上からの指示待ち
パターンリズム

自分が犯人でなければ、原因は何でもいい？

紹介したい思考パターン

気づきに基づくアクション

現象を属人化
せず考える

メカニズム
を知る

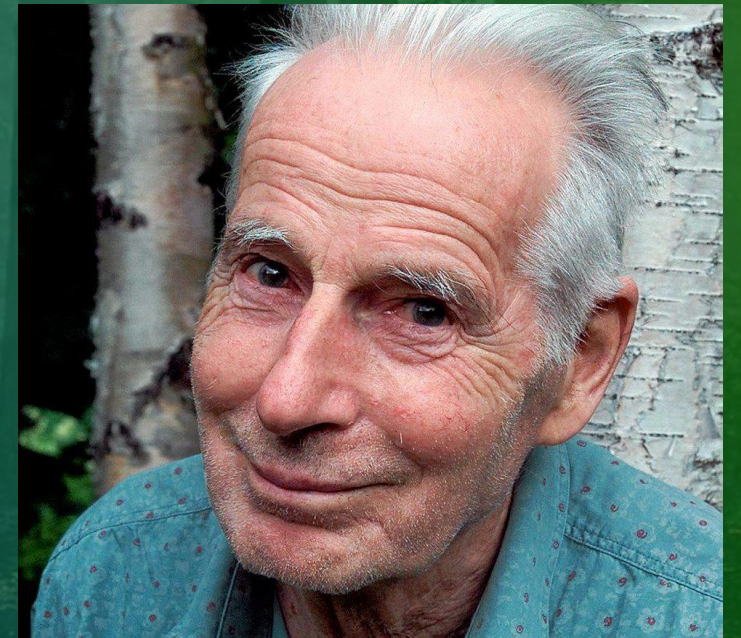
自分自身の
在り方／構造
を問う

犯人探しよりも、そのメカニズムとその因果律を重視

ディープ・エコロジー

ネス「エコロジーに宗教／哲学は不可欠」

- ノルウェーの哲学者アルネ・ネス（1912-2009）
- 27歳にオスロ大学哲学部長。1970年に退職。
- 1972年にディープ・エコロジーを提唱
- 趣味は登山とボクシング。
- 自然保護活動や社会運動にも積極的に取り組む。
- 2002年に北欧会議自然・環境賞、2004年にパール・ギュント賞を受賞。



アルネ・ネス（1912-2009）
ガンジーとスピノザの思想をもとに、エコロジー思想を展開。ディープ・エコロジーを提唱する。

ディープ・エコロジー

2つのエコロジー

シャロー・エコロジー：「浅い」エコロジー

- 近視眼的で場当たりの環境保全活動。数値的目標を達成するための目的化したエコロジー活動。

→「SDGsウォッシュ」のようなもの
シャロー・エコロジーではダメ

ディープ・エコロジー：「深い」エコロジー

- 長期的かつ全体的なヴィジョンにもとづくエコロジー活動。
- 「あらゆる物事は関連づいていて、独立した存在は何一つない」との気づきに基づいた活動、そこから派生する運動。
- 気候危機とは、人間に対する自然からの問いかけ（問いの必然性）

→ディープ・エコロジーでないと気候危機は解決しない（繰り返される）

ディープ・エコロジー

ディープ・エコロジーが求めること

- 気候危機で人間活動に変化が求められている
→人間活動には、そもそも無理がある
- 人間の根本からの変換が求められている
→人間のバージョンアップが必要

【方向性】Ego（自我）からSelf（自己）へ

「小さな私：すべてから切り離された独立した存在」という認識から、「大きな私：あらゆるものや時間空間とつながっている存在」という認識へ。

→そのためには、身体的／哲学的 鍛錬が必要



アルネ・ネス（1912-2009）
ノルウェーの哲学者。ガンジーとスピノザの
思想を学びつつ、エコロジーに援用。
ディープ・エコロジーを提唱する。

ディープ・エコロジー

自己の4段階

ディープ・エコロジーと仏教

ディープ・エコロジーにもっとも接近したのが仏教

- 仏教研究者によるディープ・エコロジーの発見
- トランスパーソナル心理学との連携
- ネスは、禅センターほか、仏教施設で講演多数
- ネスによる仏教論文
- 日本では、奈良康明、竹村牧男らが取り上げる



ディープ・エコロジーと仏教

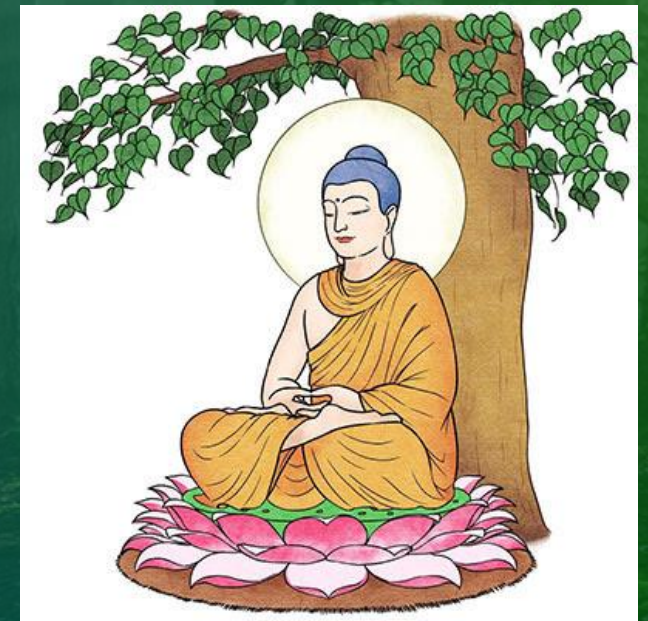
仏教のエコロジー的態度

- 縁起（えんぎ）

時間空間は網の目のようにつながりあっている。
独立した存在は何一つない。

→メカニズムを探る態度

原因が結果をもたらすという認識。過去が今を生み、
今の結果が将来を生むという認識。その枠を出た存在は何一つない。気候危機をそうしたメカニズムの上で捉える。



ディープ・エコロジーと仏教

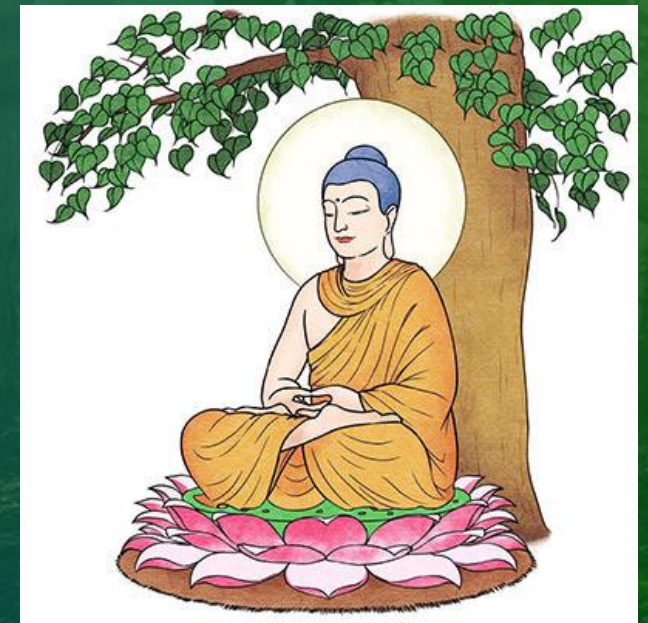
仏教のエコロジー的態度

- 自然（じねん）

「自ら然る」、人間の作為のない「そのまま」の在り方。法（真理）が「そのまま」に顕現していること。

→必然性に沿って行為するという態度

気候危機が促す必然性とは何か。すでにこれだけの影響が出ていて、今後さらなる気温上昇が見込まれる。過剰な消費、比べ合い、敵対・・・私たちは生きてゆくうえで、無理をしてはいないか。



ディープ・エコロジーの課題

- 抽象度が高い。
- 具体的な指示がない。
- 何をすればいいかわからない。
- 実際にどんな活動になるのか、わからない。

エプロン・ダイアグラム



宗教は気候危機に具体的に
どう関われるか？

- 1995年に「エプロン・ダイアグラム」発表
- 4つの段階に分けて、実際のエコロジー活動に宗教／哲学を意味づけようとした。

エプロン・ダイアグラム

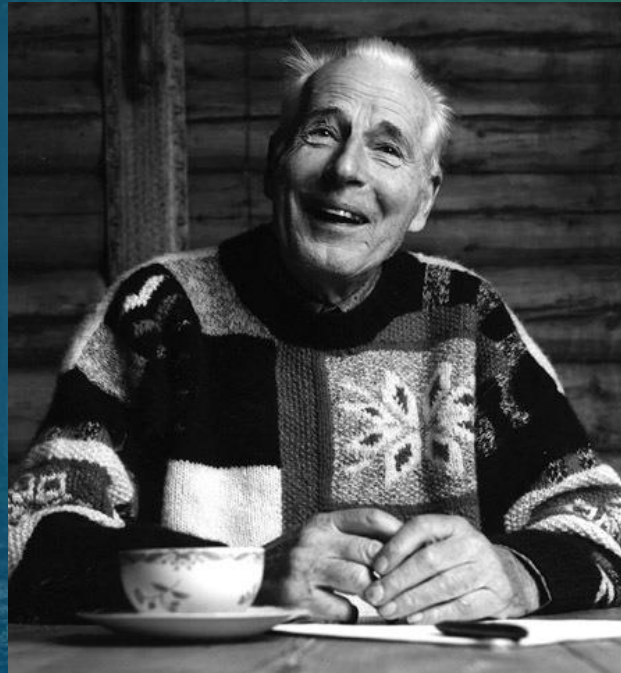


まとめ

人がバージョンアップしないと、気候危機の解決は難しい。

それは「あたりまえ」の法則に気付くこと。

仏教はそのことを言ってきた宗教。



自分の姿に気づきさえすれば、過剰な消費行動とか、誰かとの比較で何かを欲しがるとか、ちっぽけに思えたりする。

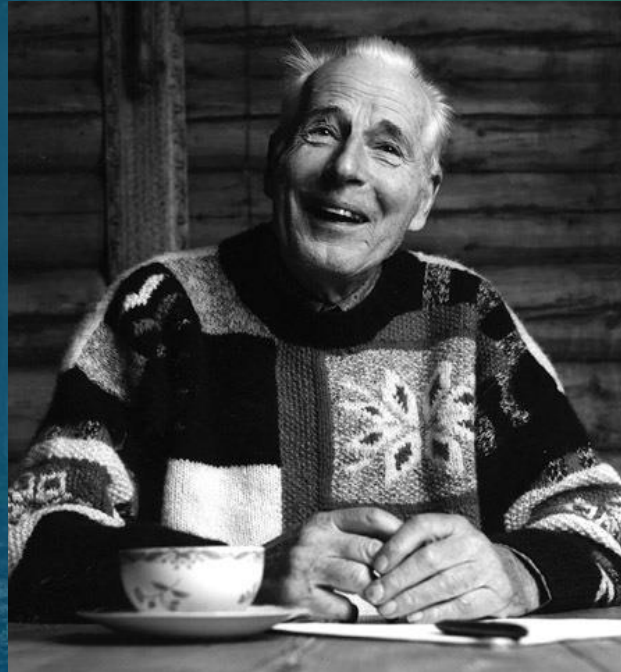
そこからエコロジーの生活や活動や運動が展開する。

その活動・運動は、きっと長続きする。

まとめ

ある講演会が終わる時、
演題の花の一枚の葉っぱを
採って、次のように言った。

この葉っぱをながめなが
ら、人生を過ごすことも
できるのです。



「拈華微笑」



ありがとうございました

本多 真成

電子メール

honda@tera-energy.com